

平成 22 年度 観光振興施策の実施状況

観光国際総局観光政策課

1 将来の観光を担う人材の育成

(1) 観光に対する理解と関心の醸成

○小中高等学校での学習の推進

- ・徳島の自然や伝統芸能・文化や特産品等の魅力を楽しく学び、郷土を愛する心を醸成するため「阿波とくしま観光かるた」を製作し、県内全ての小学校・幼稚園に贈呈・配布するとともに、観光かるた大会を開催した。

◆第1回観光かるた大会：平成23年2月13日開催、参加者250名

○郷土を再発見できる講座の開催

- ・県内の民俗芸能及び民俗文化財を対象とする3つのコースを設定し、延べ21日間にわたって講座を開催した。

○観光振興に関する情報の周知

- ・「阿波とくしま観光の日」、「阿波とくしま観光週間」を記念するとともに観光振興を推進する気運を醸成するため、県央、県南、県西において「もてなしの阿波観光リレーシンポジウム」を開催した。

(2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

○主要観光地等でのガイドによる対応

- ・平成21年度からウェルかめ推進員を配置し、ボランティアガイドの育成や地域の観光情報の発信を実施した。
- ・美馬エリアを中心とするにし阿波のボランティアガイドを対象に、実地研修を実施し、スキルアップを図った。

○観光講座の充実

- ・「地域の光を魅せるには」をテーマに、観光振興に関心のある県民を対象とした「とくしま観光講座」を開催した。

◆開催期間：平成22年12月～平成23年3月、全5回開催

(3) 観光の振興に寄与する人材の育成

○リーダーの育成

- ・四国観光検定に合格した者を対象に観光地での実地研修や達人間の交流とスキルアップをすることにより活躍の場等の拡充を進めた。

○観光従事者向け研修の実施

- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷山里物語」において、研修会を開催するなど、インストラクターの養成に取り組んだ。

○外国人観光客に対応できる人材の育成

- ・ 四国運輸局と連携し、観光関係従事者等を対象とした中国人観光客受入接遇研修会を徳島市内で開催した。（観光庁主催）
 - ◆ 訪日外国人受入接遇研修会：平成23年2月7日開催
 - ◆ 中国人観光客との実践コミュニケーション研修：平成23年2月28日開催

○観光分野でのICT活用人材の育成

- ・ 県民を対象に、県内10会場でデジタルコンテンツ作成講座（19講座）を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ボランティアガイドを育成する講座の開催やネットワークの構築を図るなど、ボランティアガイド団体の活動が県内各地において順調に行われている。
- 「南阿波よくばり体験推進協議会」や「そらの郷」において、インストラクターの研修や養成講座を開催することにより、体験型観光指導者のレベルの向上及び育成が着実に進んでいる。

2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

（1）住んでよし、訪れてよしの観光地づくり

○観光客との交流が生まれる観光地づくり

- ・ 農林漁家民宿の開業支援と、農林漁家民宿を育成するための組織づくりを推進し、併せて農林漁家民宿開業や農林漁業体験を指導できる人材育成を図った。
- ・ 三好市東祖谷落合集落において、地域コミュニティの維持再生と定住促進を図るため、古民家2軒を体験型宿泊施設に改修する工事に着手した。

○地域が一体となって取り組む観光地づくり

- ・ 「縁JOYトラベルステーション」を設置し、にし阿波地域の英語版ガイドマップの作成と、特典を提供する地域内の観光施設（28箇所）の紹介や、無料休憩スペースの提供、外国人旅行者への情報提供を実施した。

○人にやさしい観光地づくり

- ・ JR徳島駅周辺において、県管理道路のバリアフリー化を推進したほか、歩行者用案内標識に4か国語表記（6基・28枚）を行った。

(2) 観光資源の育成

○四国八十八箇所巡りと県内各地での観光の組み合わせ

- ・長距離自然歩道（四国のみち）として、「山里のみち（板野町）」と「山寺のみち（上板町）」の歩道再整備工事を実施した。

○伝統芸能の振興、活用

- ・「徳島市阿波おどり」に対し、無料棧敷やにわか連、総合案内所の運営、交通円滑化の事業に助成するとともに、県外客への県庁外来駐車場の開放や駐車場情報の提供を行った。
- ・平成22年11月を中心に、「阿波藍国際研修会」「藍染ファッションショー」「阿波藍×未来形プロジェクト展」「阿波藍千枚の布に挑む展」などを県内各地において開催した。

○伝統工芸の振興、活用

- ・阿波おどり会館「あるでよ徳島」で藍染め、しじら織シャツをクールビズの視点で販売し、認知度の向上と地場産業の振興を図った。

○宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

- ・地産地消協力店等の登録を推進し、徳島ならではの食を提供することにより、誘客の促進を図った。
- ・県内で採れる薬草を使った薬膳料理を関係宿泊施設等と共同開発し、紹介パンフレットを作成し、新たな観光客の掘り起こしに努めた。

○観光資源の掘り起こし

- ・「池田町うだつの街並み」などの観光資源を活用して、まち巡りプログラムを開発し、他のエリアと連携したモデルルート等により、ガイド勉強会やモニターツアーを実施し、にし阿波の圏域全体の魅力向上と情報発信を図った。
- ・日和佐漁業者会において、千羽海崖等を遊覧する「うみがめマリンクルーズ」を運行し、観光誘客を図った。

(3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

○農林水産物のブランド化

- ・京阪神や京浜地域を中心とした「新鮮 なっ！とくしま」号の展開や「とくしまブランド協力店」・「美味しいよ！とくしまブランド店」の登録により、大都市圏におけるPR体制の強化を図った。

○農林水産物直売所の活用

- ・美馬市・つるぎ町・三好市・東みよし町にある10カ所の産直市が連携し、「産直市まつり」を開催し、特産品の販売・PRを行った。

◆にし阿波の産直市まつり：平成２２年１０月１１日開催

◆にし阿波の産直市スタンプラリー：平成２２年１０月１１日～１２月５日開催

○消費者等へのアピールの場の提供

- ・県外で県産品のＰＲや販路拡大に寄与する店舗を県のアンテナショップとして認定する「阿波とくしまアンテナショップ」を創設し、その第１号店として東京の「徳島・香川トモニ市場」を認定・支援することにより、官民協働による県産品の販路拡大や情報発信を行った。

◆徳島・香川トモニ市場グランドオープン記念イベント：平成２２年１０月１日開催

〔４〕地域の観光の振興に関する総合力の向上

○観光地の連携による周遊型観光の推進

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」における旅行形態別おすすめルートの紹介、「にぎわいとくしま推進協議会」で作成する「おすすめ周遊ガイド」におけるおすすめルートの紹介、四国ツーリズム創造機構における四国観光モデルプランの作成など、広域的な観光ルートの開発、情報発信に努めた。

○観光に関する情報の共有化

- ・官民一体となって観光振興に取り組むための組織として、「もてなしの阿波とくしま推進会議」を設置・開催し、情報交換を行った。

◆第１回会議：平成２２年４月２７日開催、第２回会議：平成２２年７月２９日開催

〔５〕自然環境及び良好な景観の保全

○自然体験活動等を通じた環境学習の推進

- ・県民に森や野鳥、昆虫等自然とふれあう機会を通して自然の大切さを知ってもらうため、県立佐那河内いきものふれあいの里等において、自然観察会を実施した。

○環境と景観の美化

- ・環境と景観の美化に向けて、様々な清掃活動を推進した。
 - ◆「ゴミゼロキャンペーン」 参加者：４５９団体、８１，７６９人
 - ◆「吉野川干潟クリーンアップ」 参加者：６３５人
 - ◆「ゴミゼロ阿波おどり」 参加者：５０７人
- ・三好市において、歴史的価値のある建造物（武家屋敷）を紹介する案内板を設置するとともに、歴史的風致形成建造物の修理を行った。

〔６〕観光客の利便性の向上

○着地型観光での利便性の向上

- ・県西部地域において、「ちいおり」タクシー付きモニタープラン商品のほか、「に

し阿波レンタサイクル」及びにし阿波全域で使用可能な「クーポン付きパンフレット」を特典として組み込んだ商品を販売した。

- ・アウトドアスポーツメニューカタログ「南阿波アウトドア道場 3rd edition」を作成し、アウトドアイベントなどで配布するなどのPRを実施した。

○クレジットカード等の利用による利便性の向上

- ・県内における銀聯カード使用可能店舗の一覧を観光情報サイト「阿波ナビ」の簡体字版に掲載し、情報発信を行った。

○交通アクセスの向上

- ・平成22年10月31日から、主要路線である東京線のダブルトラック化が実現し、過去最大の1日9往復となり、利便性が飛躍的に向上したことについて、あらゆる機会を捉え周知・PRを行った。

○二次交通の整備

- ・県東部地域の周遊性を高めるため、徳島バスと鳴門市営バスと連携し、「鳴門観光2日間フリー乗車券（特典付き）」の商品化を行い、PR用チラシを県内観光施設等で配布した。

○駐車場の確保

- ・大鳴門架橋記念館及び渦の道の指定管理者と連携し、ゴールデンウィークとお盆期間中、亀浦港周辺に無料の臨時駐車場を確保し、無料シャトルバスを運行するなど、渋滞緩和を実施した。

（7）安全及び安心の確保

○事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

- ・防災・危機管理情報「安心とくしま」ホームページにおいて、大雨に関する情報をはじめ、様々な危機現象について、迅速かつ分かりやすく情報の周知に努めた。

【個別目標の進捗状況】

- ・地産地消協力店については、飲食店や量販店のほか、農作物直売所の登録がすすみ、順調に増加している。
- ・農林水産物ブランド品目を新たに選定し、ブランド品目は増加している。また、「新鮮なっ！とくしま」号の展開による「とくしまならではの」のPRや、知事と生産者等が中心となって直接的に京阪神・京浜地域への実需者へPRする「とくしまブランドSHOW」の実施などにより、本県の農林水産物ブランドの認知が進んでいる。

3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

(1) 新たな観光旅行の開拓

○グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

- ・インターネットWEB上にPRコンテンツを作成し、「車で行く徳島の楽しさ」をアピールし、農林漁業体験、果樹や棚田のオーナー制などを、関連する自然や文化、人、食などとともに詳しく紹介した。

○メディカル・ツーリズムの推進

- ・本県へのツアー造成や個人旅行への誘引となるよう、旅行会社やメディア向けに観光説明会を開催し、医療観光について積極的にPRした。

○産業観光の推進

- ・平成22年秋に開催した「とくしま祭り」において、「酒蔵」や「醤油製造所」を対象としたスタンプラリーを実施し、新たな産業観光資源の整備と情報発信を図った。

○食を活用した観光の推進

- ・徳島ラーメンマップを企画・製作し、県内観光施設、宿泊施設、観光案内所、高速道路SA等に配布しPRに努めた。
- ・「徳島の活鱧料理味わいキャンペーン」など県産ハモを知っていただくための取り組みを実施した。
 - ◆「徳島の活鱧料理味わいキャンペーン2010」の実施
 - ◆県内学生食堂でのメニュー化
 - ◆「鱧三大祭」でのPR等

○参加・体験型教育旅行の誘致

- ・「南阿波よくばり体験」や「そらの郷山里物語」における、インストラクター研修会や教育旅行誘致活動について支援した。
- ・「第8回全国ほんもの体験フォーラムin徳島」の大会告知により、体験型観光先進地域としてのブランドを全国に発信するとともに、地元においても開催準備を通じて、受入組織の強化とともに、地域の体験型観光を推進する気運の醸成が図られた。

(2) 観光客の滞在促進

○観光資源の特色を生かした観光プランづくり

- ・家族連れ等が、南部圏域の豊かな自然に親しむことができるイベント「四国の右下アウトドアフェス with 野田知佑」、アドベンチャーレース「エクストリームチャレンジin四国の右下2010」を開催した。

- ・にし阿波の歴史文化や地域資源を活かした旅行商品の造成に取り組んだ。
- ◆「箸蔵アニマルミステリーツアー」の開発
- ◆襖からくり定期公演を組み入れたツアーの開発
- ◆タクシーでめぐる「古民家ちいおり」での平家弁当プラン等の開発

○徳島ならではの食材、県産品を生かした観光メニューづくり

- ・徳島自動車道のサービスエリアでの「とくしまブランド丼」のPRや高校生による「とくしまブランド料理コンテスト」の実施など、県産食材のPRを行った。

【個別目標の進捗状況】

- ・とくしま農林漁家民宿の開業支援と育成のための組織作りの推進や、人材育成を図り、積極的にPRした結果、体験宿泊者数は順調に増加している。
- ・本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入れに積極的に取り組み、体験型教育旅行における協議会受入泊数は順調に増加している。

4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

〔1〕徳島県の魅力に関する情報発信

○人的ネットワークの活用

- ・「阿波とくしま観光大使」の倉科カナさん、白鵬関に、本県が主催する各種イベントへ参加していただくなどし、広い情報発信力を活用しながら、本県の魅力発信を行った。

○インターネット、携帯サイトの活用

- ・新コンテンツ「阿波おどりナビ」を開設するなど、観光情報サイト「阿波ナビ」の充実を図った。
- ・「高速道路新料金」や「本県の魅力」などの情報を集約して紹介するホームページ「高速道路で徳島を楽しむサイト 近いよ！徳島」を活用し、「高速道路を利用した観光」について、積極的な情報発信を行った。

○情報発信拠点の充実

- ・県外事務所内の観光コーナーにおいて、観光・イベントポスターやパネルを展示するとともに、県や各市町村等が作成した観光パンフレットを旅行業者や来客者に配布し、詳しい説明を行うことにより、観光情報を積極的に提供した。

○県民一人一人の情報発信力の向上

- ・とくしまWEB大賞2010において6サイトを表彰し、情報発信の促進を図った。

○口コミの活用

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」の誰もがクチコミ情報を提供できるサブサイト「もっと！！阿波ナビ」で旬の魅力ある情報の収集・発信を図った。

○観光・物産展の開催

- ・首都圏や関西、九州等の各百貨店において四国観光物産展等を開催し、本県特産品の販路拡大と誘客促進を図った。
- ・京阪神や京浜地域の量販店等において「新鮮 なっ！とくしま」号を展開し、阿波おどりの演舞や物産・観光のPRなどを行う「徳島ならではの」の情報発信を行った。

○総合的な情報発信活動の強化

- ・他府県との間で互いに広報紙面等を交換して本県の魅力発信を行った。
 - ◆広報紙：兵庫県、和歌山県、奈良県、鳥取県
 - ◆メールマガジン：京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、愛知県

(2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

○ロケーションブランドの確立

- ・「徳島県ロケーション・サービス」を中心に、本県を3か月にわたり紹介した情報番組「碧い楽園 徳島」や映画「こころざし〜舎密を愛した男」などのロケを支援した。

【個別目標の進捗状況】

- ・観光情報サイト「阿波ナビ」においては、新コンテンツ「阿波おどりナビ」を開設するなど、内容の充実を図ることにより、アクセス数が向上した。
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の運行回数は順調に増加しており、「徳島ならではの」のPRを展開し、新鮮で、安全・安心な「とくしまブランド」の浸透を図った。

5 国際観光の推進

(1) 外国人観光客の来訪促進

○伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

- ・上海万博会場に設置した本県ブースでの観光PRや阿波踊り公演、上海市内に

における観光商談会を実施し、観光誘客に向けたプロモーションを実施した。

- ・ 関西広域機構の活動として、タイにおいて旅行会社・マスメディアを対象とした観光セミナーを実施し、本県の伝統文化等である阿波おどりや藍染めなどのPRを行った。

○ターゲットを絞った誘客活動

- ・ 本県の医療観光の旅行商品造成を推進するため、上海において現地旅行会社を招請し、商談会を実施した。
- ・ 高松観光コンベンションビューローと連携し、韓国青少年連盟（大邱連盟、大田忠南連盟）所属の小・中・高校生約760名の受け入れを行い、本県の観光、歴史文化体験とともに学校での子どもたちの交流会を開催し、国際交流の促進を図った。

◆期間：平成22年8月1日～21日、受入人数：757名

○海外からの誘客活動の推進

- ・ 東アジア（韓国・中国・香港・台湾）の旅行会社・メディア等を招聘し、四国の観光地を視察後、松山市で商談会等を開催した。

○外国語パンフレットによる情報発信

- ・ 県内の観光案内所や観光施設等へ外国語パンフレットを設置し、外国人向け情報発信を行った。

○インターネットを活用した外国人向け情報発信

- ・ 県の外国語ホームページの更新を行うとともに、観光施設ページ等の多言語化を推進した。
- ・ 関西広域機構が運営するホームページ(Kansai Window)において、多言語による徳島県を含む関西のイベントや観光情報等の情報発信を行った。

(2) 外国人観光客の受入体勢の整備

○外国語表記の推進

- ・ 4カ国語併記（日本語・英語・中国語・韓国語）の基本案内表示シールを作成し、県内の主要観光施設等に配布した。

○外国人観光客への案内サービスの向上

- ・ 徳島県国際交流プラザにおいて、外国人観光客に対する観光情報の提供、各観光案内所からの問い合わせへの回答 及び観光情報やパンフレット等の収集を行った。

○国際チャーター便の活用

- ・中国・湖南省との定期チャーター便の就航に向け、中国人誘客を促進するため、県内移動費等の助成制度を構築した。
- ・旅行会社等に対し、積極的なエアポートセールスを行った結果、23年春から中国湖南省との定期チャーター便が就航する運びとなっていたが、東日本大震災や原発事故の影響から就航が延期されている。

(3) 海外との相互交流

○海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

- ・ニーダーザクセン州への日本語指導教員派遣をはじめ、留学生の相互交流やスポーツ・教育関係訪問団の受入などを行った。また、中国・湖南省との間で正式な友好提携の前段となる「友好交流に関する意向書」に調印し、幅広い交流を深めていくことで合意した。

【個別目標の進捗状況】

- ・上海万博等の海外公演へ阿波おどり連を派遣するなど、伝統芸能の海外派遣により、本県の魅力をPRする機会が確保された。
- ・関西広域機構や四国ツーリズム創造機構など、関西圏や四国の連携により、東アジア（韓国・中国・香港・台湾）等の旅行会社及びメディアを招聘し、視察ツアーや商談会などを実施したことにより、本県の魅力に接する機会が増大した。

6 広域観光の推進

(1) 広域的な観光地の形成

○観光地の連携による滞在型観光の推進

- ・官民が連携し、羽田空港キャンペーンの実施や、「旅フェア」をはじめ首都圏で開催される各種商談会へ参加した他、パンフレット等が通年設置出来る「TIC」に出展し、首都圏での情報発信を強化した。また空港イベント等も積極的に行い「にし阿波」のPRに努めた。

(2) 四国4県及び関西圏の連携

○近隣府県と一体となった観光への取組

- ・四国ツーリズム創造機構の活動を通じて、官民一体となって国内外に向けた観光プロモーションを実施した。
 - ◆「JAL麗らか四国キャンペーン」で旅行会社が実施する往復JAL便利用の四国旅行商品に対するバス代を補助
 - ◆「ANA誘遊四国キャンペーン」で観光地を巡るキャンペーンバスを運行

- ◆アジア最大の旅行博（台北国際旅行博覧会）への出展・商談会開催
- ・四国や近畿との連携により、四国3県、近畿2府6県（京都府・大阪府・三重県・滋賀県・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県）の子育て家庭応援事業で実施する優待サービス等の相互利用を可能とした。
- ・兵庫県と連携し、クーポン券付きの観光パンフレットの作製・配布や、貸切バスにより両県の施設を巡る団体旅行に支援する「とくしまツーリズムバス事業」を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・四国ツーリズム創造機構において新たな観光モデルプランを策定し、四国の広域観光モデルルートは順調に増加している。
- ・兵庫県と連携したバス団体旅行への支援については、国内外の団体に多く利用されており、広域観光の推進に結びついている。

7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

（1）イベントの開催などによる集客

○既存イベント等の改善や組み合わせによる集客力の向上

- ・「春の阿波おどり」として親しまれている「はな・はる・フェスタ2010」を支援し、「とくしまマラソン」や「徳島LEDアートフェスティバル」との相乗効果による集客力の向上を図った。

○新たなイベント等の創出

- ・徳島市中心市街地においてアニメを核としたイベント「マチ☆アソビ」vol.3～vol.5を開催した。
- ・文化の森20周年記念事業のプレイベントとして、全国的に展開している「スタジオジブリ・レイアウト展」を開催し、県内外に大きくアピールできたほか、文化立県とくしま推進会議の阿波藍の魅力を発信する事業とも連携した企画展を実施し、年間を通じた徳島の文化発信に努めた。
- ・にし阿波において行われた「パラグライディングアジア選手権」及び「にし阿波アウトドアフェスタ（吉野川竹筏下り、自転車王国とくしまツール・ドにし阿波、パークゴルフ交流大会等）」の開催に協力し、交流の促進を図った。
- ・「しんまちボードウォーク」において、徳島産のこだわりの農産物や加工品をパラソルショップで販売する「とくしまマルシェ」が開催され、県内外からの集客が図られた。

(2) コンベンション誘致

○コンベンション実施主体への助成

- ・大規模な大会等に対し、その開催経費について助成を行い、観光とコンベンションの総合的な振興を図った。
- ・国内・国際コンベンションの誘致促進を実施している日本コンgres・コンベンションビューロー(JCCB)のノウハウや情報を活用するとともに、大学、旅行会社のほか主催団体等と連携し、保有する開催計画などの情報収集、意向調査に努め、本県開催の誘致促進を図った。

(3) スポーツによるにぎわいづくり

○交流人口の増加

- ・平成22年4月25日に「とくしまマラソン2010」を開催した。
- ・「自転車王国とくしまライド inNARUTO」を11月21日に開催し、県内外から419人が集い、23 km 又は65 km の自然豊かなコースを楽しんだ。また、王国公式コースを20コースに増やし、公式コースマップを作成、配布することによって、サイクルスポーツの魅力を発信した。

○プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわい創出

- ・ピッチ看板を利用した行政PR、優秀選手の表彰、小中学生グループ招待を実施。また、「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」によるホームゲームを活用した連携事業を実施した。

【個別目標の進捗状況】

- ・積極的なコンベンション誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション参加者数は増加している。
- ・4月25日に第3回目となる「とくしまマラソン2010」を開催し、ボランティアや地元の方々の協力のもと、「徳島ならではの」の応援や「おもてなし」などで本県の魅力をアピールし、にぎわいの創出を図った。

「徳島県観光振興基本計画」数値目標 平成22年度進捗状況一覧表

数値目標（項目）	単位	現況値	年度	実績値 (22年度)	目標値	平成22年度進捗状況の説明 (22年度実績値がない場合は、21年度進捗状況とする)
【戦略目標】						
観光入込客数	万人	1,357	19	—	2,150	NHK連続テレビ小説「ウエルかめ」の放送効果や秋の大型連休「シルバーウィーク」等もあり、前年比3.7%増の過去最高となった。（22年実績は23年秋頃に判明）
県外入込客数	万人	727	19	—	1,450	高速道路のETC休日割引や南海フェリーの社会実験による料金割引などがあり、前年に比べて大幅に増加した。（22年実績は23年秋頃に判明）
宿泊者数	万人	123	20	—	148	宿泊施設の稼働率については、59.5%と全国で13位と高い数字となっているものの、新型インフルエンザの流行などの影響で前年比2.7%減少となった。（22年実績は23年秋頃に判明）
外国人入込客数	人	16,184	20	12,912	33,000	関西や四国という広域連携を活用したV.C地方連携事業などにより、外国人旅行者の誘客促進を行うと同時に、受入態勢の整備に取り組んだ。
外国人宿泊者数	人	18,640	20	—	37,000	入込客数の減少に加え、通過型の団体周遊コースが多いことも要因の一つになり、前年より減少した。（22年度実績は23年秋頃に判明）
コンベンション年間開催件数	件	216	20	183	270	積極的な誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション誘致の促進に取り組んだ。
【個別目標】						
1 将来の観光を担う人材の育成						
ボランティアガイドの団体数	団体	17	20	19	25	ボランティアガイドを育成する講座の開催や、ネットワークの構築を図った。ボランティアガイド団体の活動が県内各地において順調に行われている。
「とくしま観光講座」受講者数（累計）	人	—	20	291	1,500	「おもてなしの心」を掲げる取組みとして、地域の観光振興に関心のある方を対象に5回講座を開催した。
体験型観光のインストラクター研修の実施数（累計）	回	2	20	7	15	「南阿波よくばり体験推進協議会」や「そのの郷（旧：そのの郷山里物語協議会）」において、インストラクターの研修・養成講座を開催し、体験型観光指導者の育成に取り組んだ。
2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり						
地産地消協力店数（累計）	店	192	20	236	270	飲食店や量販店のほか、農作物直売所の登録がすすみ、協力店は順調に増加している。
農林水産物ブランド品目飛躍数	品目	12	20	30	38	「新鮮 なっ!とくしま」号の展開による「徳島ならではの」PR、知事と生産者等が中心となって直接的に京阪神・京浜地域の実需者へPRする「とくしまブランドSHOW」を実施した。（「ブランド品目」の選定は、平成22年度に実施）
観光案内標識の規格、デザイン等の統一基準の策定	—	—	20	検討中	策定	関西広域連合（H22.12.1設立）における主な取り組みとして、関西全域を対象とする観光案内表示の基準統一が掲げられており、今後広域的に取り組んでいく。
観光の日における美化参加団体数（累計）	団体	—	20	21	150	県内の市町村に観光地等の美化活動について協力依頼を周知し、各地の美化活動の推進に取り組んだ。
県南地域への「四国8の字ネットワーク」の整備	—	—		鳴門JCT（仮称）～徳島IC整備促進用地取得完了（本線工事着工率100%）	鳴門JCT（仮称）～徳島IC供用開始	平成26年度の供用開始に向け、順調に用地取得を推進した。
3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進						
とくしま農林漁家民宿の体験宿泊者数	人	100	20	297	700	農林漁家民宿の開業支援と育成のための組織作りの推進や、人材育成を図り、積極的にPRした結果、体験宿泊者数は順調に増加した。
産業観光のモデルルートの策定数（累計）	ルート	—		1	10	大手旅行会社に企画協力し、「阿波藍」をテーマとした産地研修会ツアーを造成した。
体験型教育旅行における協議会受入泊数（累計）	泊	1,608	20	10,905	26,000	本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入れに積極的に取り組んだ。

数値目標（項目）	単位	現況値	年度	実績値 （22年度）	目標値	平成22年度進捗状況の説明 （22年度実績値がない場合は、21年度進捗状況とする）
4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立						
「阿波ナビ」アクセス件数	件	351,000	20	492,080	500,000	新コンテンツ「阿波おどりナビ」を開発するなど、「阿波ナビ」の充実を図ることにより、アクセス数が向上した。
「新鮮 なっ!とくしま」号の運行回数（累計）	回	208	20	292	400	「新鮮 なっ!とくしま」号による「徳島ならではの」PRを展開し、新鮮で、安全・安心な「とくしまブランド」の浸透を図った。
映画、ドラマ、CM等のロケ撮影支援件数（累計）	件	20	20	61	150	的確な情報提供とアテンドにより、県内ロケの支援・誘致を積極的に行った。
5 国際観光の推進						
伝統芸能の海外派遣団体数（累計）	団体	2	20	7	15	「にぎわいとくしま観光協議会」において、上海万博等の海外公演へ阿波おどり連を派遣するなど、本県の魅力をPRした。
関西広域機構、四国ツーリズム創造機構など関西圏や四国の連携による海外の旅行会社・メディアの招聘件数（累計）	件	7	20	32	50	東アジア（韓国・中国・香港・台湾）等の旅行会社及びメディアを招聘し、視察ツアーや商談会などを実施して旅行商品の造成や観光誘客を推進した。
外国語パンフレットの配布枚数（累計）	枚	5,000	20	58,237	35,000	県内の観光案内所や施設の他、JNTOなどの海外事務所や上海万博など海外で開催される様々なイベントで配布し、積極的な情報発信を行った。
6 広域観光の推進						
平均周遊箇所数	箇所	3.4	20	—	4.0	本県における旅行日数は1泊2日の旅行の割合が最も多く、周遊箇所についても1～3箇所の割合が高くなっている。（22年度実績は23年秋頃に判明）
広域モデルルート策定数（累計）	ルート	—	20	61	80	四国ツーリズム創造機構において観光モデルプランを策定し、四国の広域観光の推進に取り組んだ。
ひょうご・とくしまツーリズムバス助成件数（累計）	件	24	20	82	170	兵庫県と連携したバス団体旅行への支援を行うことにより、広域観光の推進に取り組んだ。
7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出						
全国ほんもの体験フォーラムの参加者数	人	—	—	—	1,000	3月11日に発生した東北・関東大震災の影響により、開催中止となった。
コンベンション参加者数（累計）	人	101,153	20	285,310	720,000	積極的な誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション誘致の促進に取り組んだ。（22年度実績は23年夏頃に判明）
「とくしまマラソン」の参加者数	人	4,379	20	7,022	10,000 （東環状大橋 開通時）	4月25日に第3回目となる「とくしまマラソン2010」を開催し、ボランティアや地元の方々の協力のもと、「徳島ならではの」応援や「おもてなし」などで本県の魅力をアピールし、にぎわいの創出を図った。